

## 5 学年 算数科学習指導案

日 時 平成29年10月13日（金）5校時  
 児 童 16名  
 場 所 5年教室  
 指導者 田口 和穂

1 単元名 「10 比べ方を考えよう（1）（単位量あたりの大きさ）」（東京書籍「新しい算数」5年下）

2 単元について

(1) 教材について

本単元では、第1小単元として、平均の意味や求め方、活用の仕方などについて学習する。「ならず」ことの意味、平均の考えによる全体量の推測、要素の数量に0が含まれる場合、測定値としての平均の活用へと進む。

第2単元では、単位量あたりの大きさを表された量や数値を用いて、身近な事象の比較を「込み具合」として展開する。それが、社会科でも活用される人口密度へとつながり、比較するよさを感じ取らせることにつながっていく。そして「13百分率とグラフ」へつながり、6年「10速さ」へと発展する。

単に計算の仕方を理解させるだけではなく、比較することの有用性を実感させたり、活用する経験をさせたりしながら理解を深めさせたい。

(2) 児童について

児童は前学年までに、わり算を通して除法の意味、等分除、包含除の意味を学習している。また、等分除の操作活動の中で、同じ大きさの数量に均す経験はしている。

NR T検査の結果から、3位数÷2位数の計算は通過率75%、小数÷整数では56%と高くはない。特に文章題となると、もとにする量の判別があいまいで式を間違える児童も多い。

ペアやグループでの学習では、ノートを指し示し説明し合うことができているが、端的に話したり、比べて聞いたりすることは苦手な傾向にある。

3 単元の目標・本単元の学習の関連と発展・単元の指導計画（別紙）

4 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・面積、人数が異なる場合の混み具合の比べ方を考えようとしている。（関心・意欲・態度）
- ・面積、人数の異なる場合の混み具合の比べ方を理解し、比べることができる。（知識・理解）

(2) 評価規準

評価規準	努力を要する児童への手立て
・既習の比べ方である、単位量あたりの大きさをを用いて混み具合を比べようとする。（発言・ノート）	・回答用カードを渡し、自分の比べ方に合わせて書き込むよう促す。（回答用カード）
・単位量あたりの大きさをもとに、混み具合を比べることができる。（発言・ノート）	・比べ方により、どうなったときに混んでいるといえるのか黒板に示しておく。（掲示カード）

(3) 本時の指導にあたって

ア 本校の視点に関わって

A 算数的表現力の育成について

- ・数式の意味や考えの説明を「1□あたりの～」という用語を用いて書いたり話したりすることにより自分の考えを整理し理解を深めさせる。

B 学び合いの充実について

- ・ペア学習を取り入れ、自分の比べ方やその結果を相手に話すことで自分の考えを明確にするとともに、互いの考えを補充、深化させる。

イ 遠野中学校区の視点に関わって

① 課題意識の持続

ア 問題を提示し、ゴールを明確にすることにより問題解決意欲を高める。

イ 比べ方は多様であり、それぞれ方法に違いがあっても結果は等しくなることに気づかせ、それぞれの考え方を理解し聞こうとする意欲を高める。

② 達成状況の把握

ア それぞれの比べ方がわかり、「1□あたりの～」という用語を用いて説明できたか相互評価させる。

イ 分かったこと・気づいたこと・友達のよいところの観点に沿って振り返らせることにより、学習したことの理解につなげる。

